

Hawaii Wedding Story

一生に一度の大切なハワイ物語

憧れのハワイ挙式を『ファーストウェディング』で実現させたふたりの、実話エピソードをお届けします。

第3回は理想のフォトツアーを実現した石井さんの物語です。

Text : Masumi Nakajima Photo : Yasushi Sakai

Vol.3

「私たちがらしさ」

研修医として働く病院で、同期のなかにリエがいた。最初の点滴の研修ではペアを組み、互いにあざを作りながら何度も練習した。同じローテーションで研修するうち、何に対しても手を抜かない彼女の誠実さを知った。人として信頼できるいい仲間であり、いいライバルだった。いつしか気になる存在になり、研修2年目の秋には自然な流れで付き合うようになった。大きな考え方や好きなものが一緒な僕たち。出会うべくして出会った相手のような気がした。僕の誕生日、デートを楽しんだ後でレストランに行くと、驚いたことに病院の同期が全員そろっていた。

「おまえら、なんでここにいるの？」
彼らには僕たちが付き合っていることは内緒だった。
「決まってるだろう、リエがおまえのために集めたんだよ」とみんなニヤニヤしている。こんなにたくさんの友達に祝ってもらう誕生日は生まれて初めてだ。こんなことまでしてくれるリエの気持ちと優しさに、胸の中が熱くなった。

*
マサシはとても居心地のいい人だ。お互いに何でも言い合う性格だからたまに喧嘩もするけれど、必ずわかり合える。そして大好きなところは、家族を大切にしているところと、ど

んな面倒な仕事でも一生懸命に取り組むところ。マサシと付き合う前、父にそれとなく彼の話を話したことがあった。とても厳しい父だけれど、彼が父と同じ大学の医学部、それも同じ科を卒業しているということから、すんなりOKをもらった(笑)。今から思えば、それもまた縁だったのかもしれない。



研修期間を終え、私たちは別の医局に配属になった。お互い多忙な毎日だったが、彼が出向で寂しくなったタイミングで、ともに結婚を考えるようになった。
「一生大切にしているから、僕と結婚してください」
東京タワーが見える私のお気に入りの場所で、彼はバッグの中に隠し

ていたくしゃくしゃの花束を取り出し、プロポーズしてくれた。あまりスマートじゃないところも彼らしくて、愛おしかった。

*
ハワイ挙式は彼女の幼い頃からの憧れだ。彼女の母も大のハワイ好きで、1年の半分はハワイで暮らしていた。挙式は互いの両親のみを招待してハワイで、披露宴は半年後にたくさんの人々を招待して日本で行うことにした。「彼女の大好きなハワイで写真を撮る楽しみをウエディング」をテーマにファースト・ウェディングに相談すると、担当のKさんはこれまでの先輩カップルのフォトブックを次々と見せてくれた。撮影スポットや信頼できるカメラマンについてなど、一生懸命相談してくれた。その日から彼女は写真研究と撮影用の小物集めに没頭した。

「一生残るものだから、徹底的に私たちがらしさを表現したい！」
勉強熱心で完璧主義の彼女らしい。何度も打合せを重ね、希望やイメージをKさんはうまくまとめ上げてくれた。カメラマンは写真に強く惹かれたSさんを指名し、カメラマン2名体制で2日間に渡る挙式&フォトツアーを行うことになった。

*
スタンドグラスが美しいセントレア

ンドリユース教会での挙式は感動的だった。彼のお父様の涙を見たら、こらえていた私の涙もあふれてきた。6人だけの挙式だから、誰にも気兼ねすることなく、素直な気持ちをさげ出せる。お互いの両親がゆっくり話して仲良くなれたことが最高に嬉しかった。家族でゆっくり過ごせるのがハワイ挙式の醍醐味だと思う。「胸がいっぱいだ」という両親たちの言葉が心に残っている。

*
式後、私たちはフォトツアーに向かった。「ザ・モダン・ホルル」、「ワイマナロビーチ」、「ハワイシアター」。そして翌日は天国の海と呼ばれる「サンドバー」で、浅瀬にチェアを置き、並んで撮影した。日本から持ってきた水鉄砲で水をかけ合ったりシャボン玉を吹いたり、遊びながらの撮影は本当に楽しかった。最初は恥ずかしがっていた彼だけれど、自然と楽しくなってきたよ。次第にノリノリでポーズングしてた。ちよつと意外な彼の一面を見られて嬉しかった。

*
僕と両親にとつては初めてのハワイだったけれど、リエの両親がハワイをよく知っていることもあり、安心して楽しめたみたいだ。この二組の先輩夫婦たちは本当に仲がいい。僕らもいつか、こんなふうに互いを尊敬し合い、何でも言い合える夫婦になりたい。そしてもっともつと仲良くなりたい。結婚してもまだ知らないところがたくさんあるだろうけど、急がず、ゆつくりと、わかり合っていくべき。